

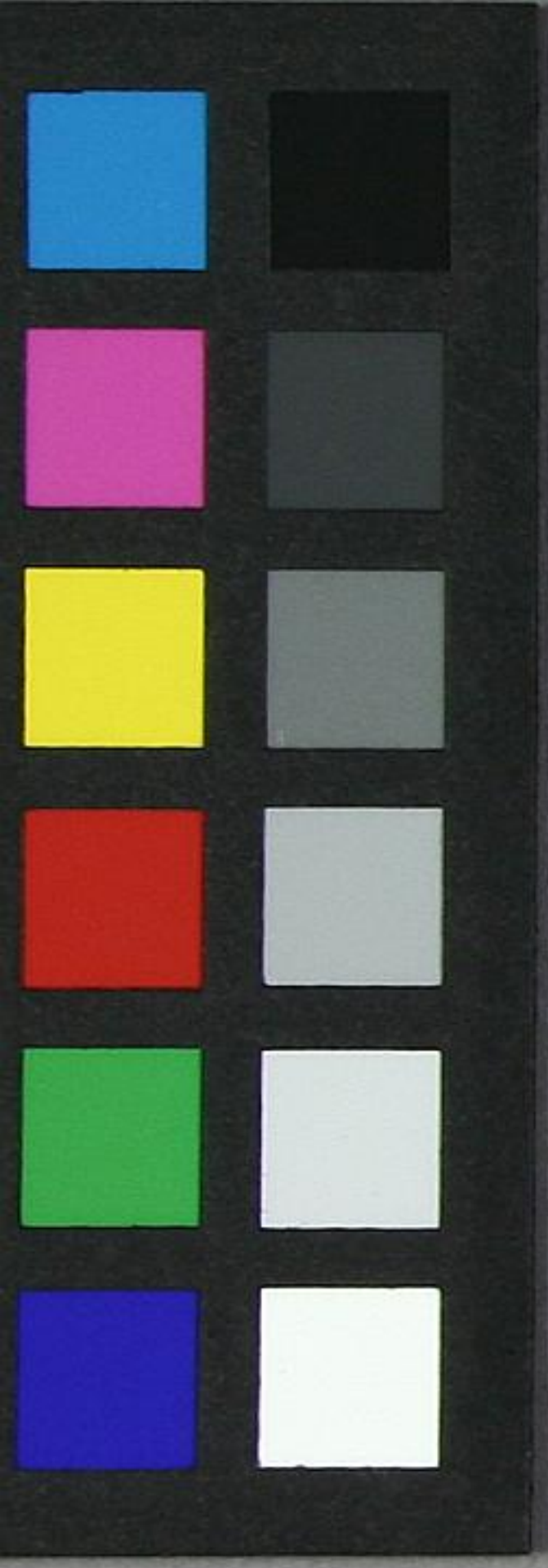
國忠 俠傳
定次 勇二

九鉄板

上

下

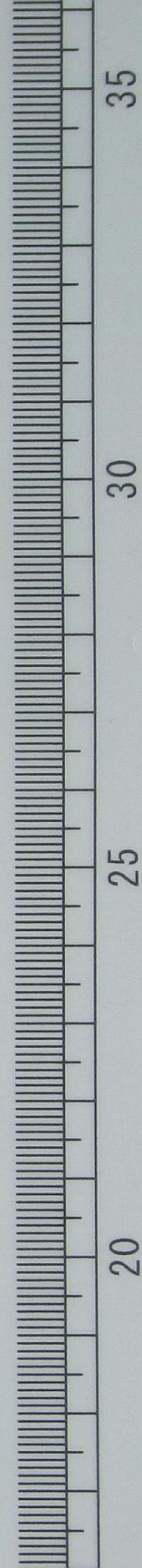




國忠 俠勇 傳 定次

上

丸鉄板



並河村孝子之助

大佛小八

岩田の頭領
國定忠次



日本

勝願寺

所化
間魔の
玄哲

釈迦十藏

大久保
一角





物の目早助

この世はつらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん

つらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん

つらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん

つらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん

つらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん

つらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん

つらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん

つらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん



小徳傳吉といふ月のきりぬひとの

月夜は静目早助といふ

この世はつらみの海に身をまかせ
井は枯れ山は崩れぬ世は常なるものぞん

ろろ
おてをうつゝ

いせやま
郷一里寄近

引是

平下りな

おまかせ

六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

二百六十五

て城江の徳
力久しと云

天德助是也

だんだんうみさむい

その中へ入るなり

[illegible]

おん
の



A detail from a manuscript showing a landscape with a river and a bridge. The drawing is in a simple, linear style, possibly a woodcut or a sketch. It depicts a river flowing through a landscape, with a bridge crossing it. The background shows some architectural elements, possibly a city or a fortified area. The overall style is characteristic of early modern manuscript illumination.

[illegible]

國水汲ふ
 川作事と
 ふものあり
 久むち
 小腰ぬ
 へる子
 中
 一の美人
 りとふ
 娘を
 雲虎
 もの
 ありて

今やし〇弘化三年のとうへ大凶年なり
 是年ハ大凶が父母の年回小凶なり
 以て香光院にてその吊札と
 鄭重執行つゝは国定村ならびに
 本郷なりとんとる所小妻任てその所
 智とあらばさきより小国定村なり
 百五箇年より五人二百七十人あり因て大凶に
 衣於諸はるるを多拂かて二人あり
 米三升餘を而又つてどことし
 あふ孤獨りの者のあり
 是を救ふ事を我儀と絶ふなり
 二面五十四文なり

[illegible]

一、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 二、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 三、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 四、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 五、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 六、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 七、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 八、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 九、^{あつ}あつと^{あつ}あつと
 十、^{あつ}あつと^{あつ}あつと

戈助
 挿
 目
 代郎の役
 穿ふお世
 どの交
 大の
 八の
 おおし八保く嘆ひ



お連女さん
お国定
お虎



虎助の力も
 剥ぎ穿つて
 大助を助け
 九面あの人
 奪ひ取る
 助るに
 上のやきまへり
 何れもありけん氷



虎助の力も
 剥ぎ穿つて
 大助を助け
 九面あの人
 奪ひ取る
 助るに
 上のやきまへり
 何れもありけん氷

氷上への氷を
 大助を助け
 九面あの人
 奪ひ取る
 助るに
 上のやきまへり
 何れもありけん氷



破却
 破却
 破却
 破却
 破却
 破却
 破却
 破却
 破却
 破却

氷上への氷を
 大助を助け
 九面あの人
 奪ひ取る
 助るに
 上のやきまへり
 何れもありけん氷

宰使虎助

私用中々

方

煙井沃の好子所

来りたり

しむくを以て中書

子分元山の榎松生葉の

松吉子出金以角口を買

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, written vertically.

ハ大群のうへるまじバ

ついでに



るれば
とと
さるちまふ

百千代の肩癰

と様でうら

上三二日

とのうと虚

隙也

あ

ひり
のまふり

富永

古不為

喜ばれぬるをよめられしも

るる愉快のそとなり 風の音も

ひさふりてふんとて四ふ

子分下馬嘯之聲ぞ其の候

たのね小鶴りつひをせんと

ちやうどくしん

喝杯が役向ふつてゐる

をとりけふより子はい

張氏忠貞堂

上
下

卷之五

あつち こ せんどう さう こと
 事柄をいひ先目 親方の機けんを
 かんぐ い せん 解衆を平ふよりある

とらふ

次

國定忠次



一賊牢を破つて
才助を援け
虎助が耳を剥

美酒佳肴をとりて
平々低低くけるを
喝杯せうくともとけん

[illegible]

いさるが^{ぢさん}おまのさけ^{さうみ}肴どのと^{うさ}食
 工^{そみ}張をうも^{トえ}時かむと^とつて
 さん^{さん}友

[illegible]

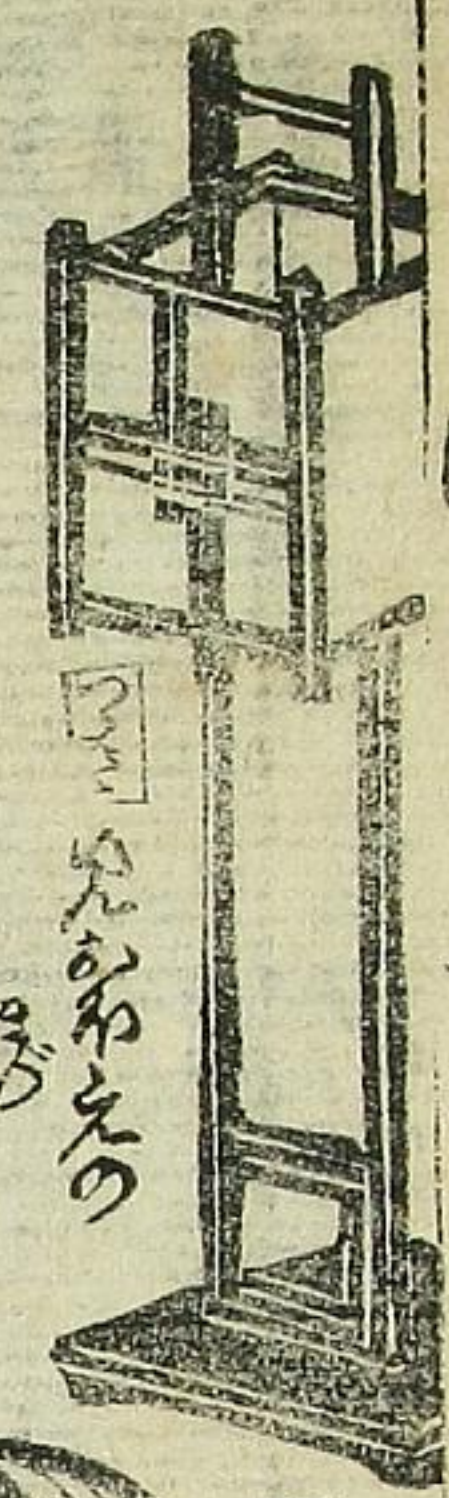
The image shows a handwritten manuscript page. At the top, there is a simple line drawing of a person's legs and feet, with the right foot pointing towards the left. Below the drawing, there are several lines of handwritten text in a cursive script, which appears to be a form of shorthand or a specific dialect. The text is written in dark ink on aged, slightly discolored paper. The overall appearance is that of a historical document or a personal notebook entry.





りうとふ
袖あめん
で情を
揺るめ
うら連

あまのこゝろをうらやま先どのの
と切候と申すなりける様候と
共ふ御休の音あて
後奉の
音



あまのこゝろをうらやま先どのの
と切候と申すなりける様候と
共ふ御休の音あて
後奉の
音

あまのこゝろをうらやま先どのの
と切候と申すなりける様候と
共ふ御休の音あて
後奉の
音



あまのこゝろをうらやま先どのの
と切候と申すなりける様候と
共ふ御休の音あて
後奉の
音

あまのこゝろをうらやま先どのの
と切候と申すなりける様候と
共ふ御休の音あて
後奉の
音

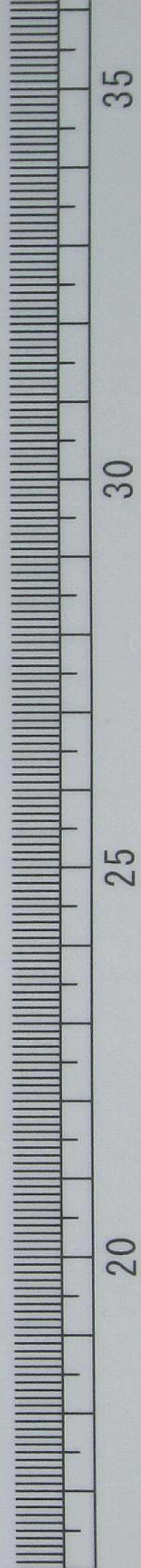
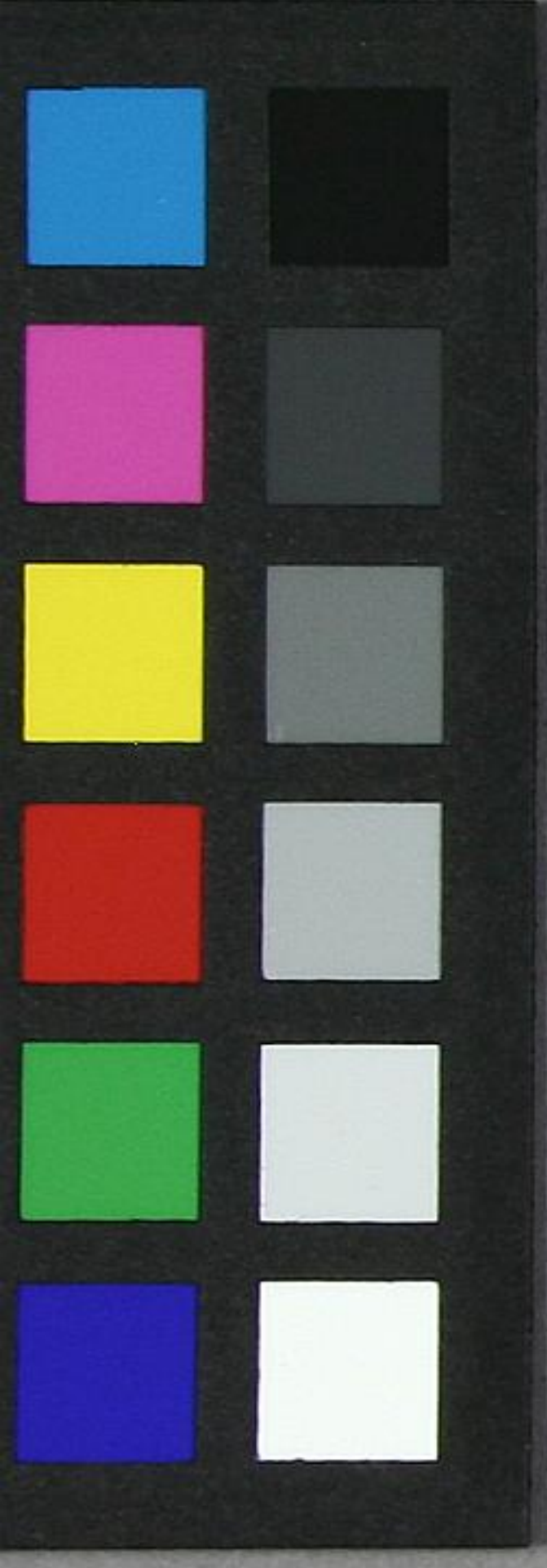
010190517506

○ 小栗判官 一代記	六冊	○ 大久保武藏鑑	二冊
○ 於古代源之祿 一代記	四冊	○ 於染久松 一代記	二冊
○ 由井正雪 一代記	四冊	○ 彦山 權現	二冊
○ 天下茶屋 敵討物語	四冊	○ 八百屋か七 一代記	二冊
○ 日蓮聖人 御一代記	三冊	○ 朝顔 日記	
○ 宮本武藏 一代記	二冊	○ 景清 一代記	四冊
○ 徳川天一坊 一代記	二冊	○ 新作 地口集	一冊
○ 箱根權現 覺仇討	二冊	○ 西國觀音 靈驗記	一冊
○ 佐倉宗吾 一代記	一冊	○ 伊賀越 敵討物語	一冊
○ 清 盛 一代記	一冊	○ 新作などく合	一冊
○ 假名手本 忠臣藏	一冊	○ 徳川 武勇傳	六冊
○ 同	二冊		
○ 算法教授書	一冊		

東京 日本橋通三丁目十三番地
丸屋 小林鐵次郎板







A 513
2 E

國定忠次俠勇傳下の巻

柳水亭種清省録



○
 上野山継きふ山田といふ所
 あり其寨小敷而の山城極て
 近郷の百姓を悩まそうも無
 事の内小吉忠次は其の
 つねを捉えをね此血戦ふり地
 方へ外抱きしむる人未だ
 いふべき夜更に城ありて刀
 起せと次工



ついでに、さきへんをひき、かたき
織を、さきへんをひき、かたき

さきへんをひき、かたき
織を、さきへんをひき、かたき

⊗ 地、床りぬ、と、き、を、耳、初め、布
の、さきへんをひき、かたき

さきへんをひき、かたき
織を、さきへんをひき、かたき

岩四の織

さきへんをひき、かたき
織を、さきへんをひき、かたき



切、さきへんをひき、かたき
織を、さきへんをひき、かたき

音吉

さきへんをひき、かたき
織を、さきへんをひき、かたき

卷之

次

卷一百一十五

69



蛇の穴

蛇の穴の長八の金八を捕る

蛇の穴の長八の金八を捕る

蛇の穴の長八の金八を捕る

蛇の穴の長八の金八を捕る

大蛇の穴の長八の金八を捕る

蛇の穴の長八の金八を捕る

蛇の穴の長八の金八を捕る



蛇の穴の長八の金八を捕る

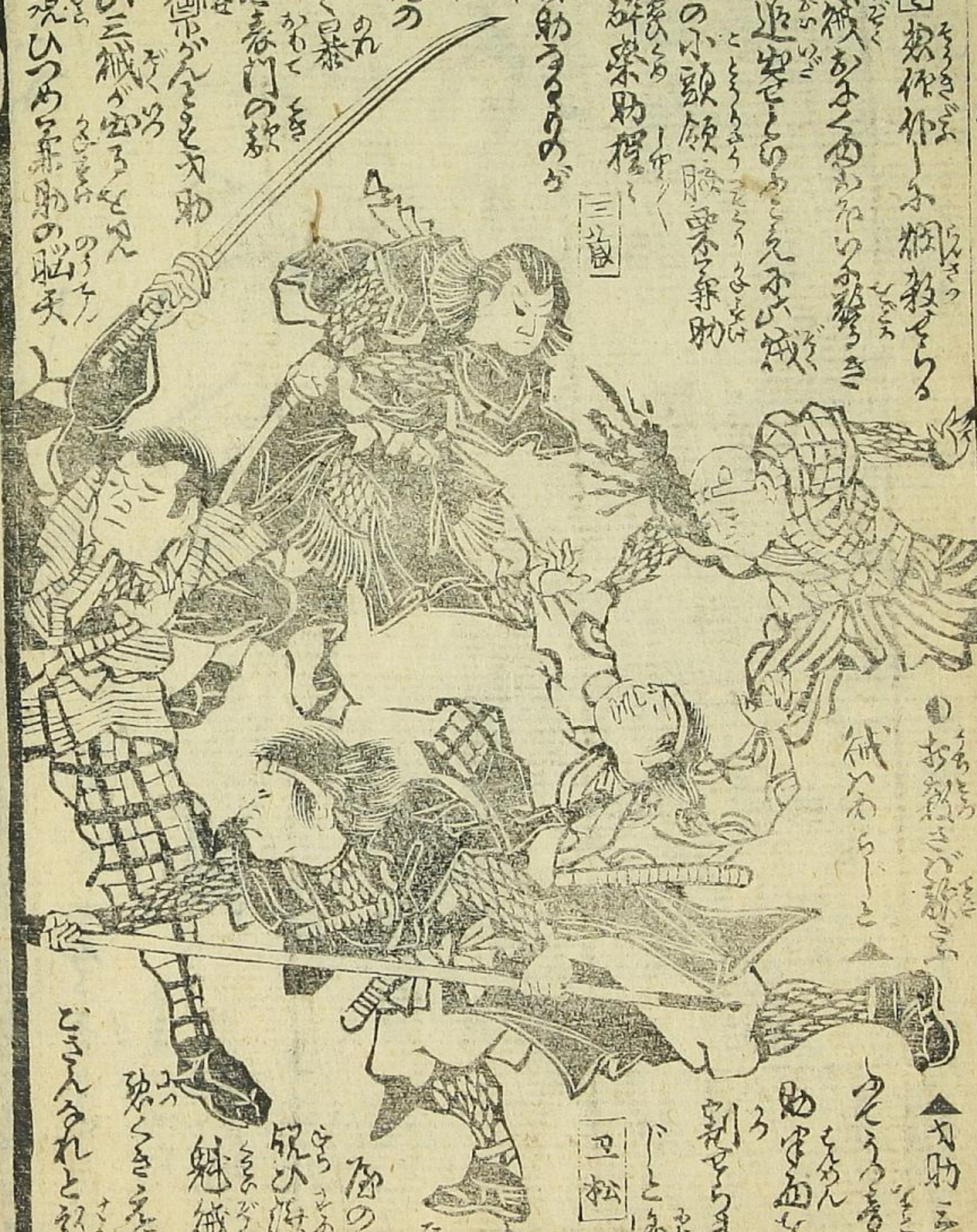
小八

蛇の穴の長八の金八を捕る

蛇の穴の長八の金八を捕る

蛇の穴の長八の金八を捕る

三

[illegible]

孝子大助が肩より
背骨（お）折れ△



[illegible]

大久保一角

[illegible]

五月の三歳

卷之五
 五
 次

四
定
下

子

一角

一角智

院吟

一

校を以て之と

生ををりしきり川合村の

佛性者利乎眾縮者為利己者

より半に減るとして一角三分の價に

方之利平沈不食

贈子之孫

いり年男ふふふ

なりのり

某

小八

奉願主

納
芳春

とて

加
乙

五

利平

之

とすの所穿するもの二角は

あがれ玉は
入道にまじりて

其の量一箱一筋と云うの

他に盗み入り穿の内外より

くも
けり
まふ

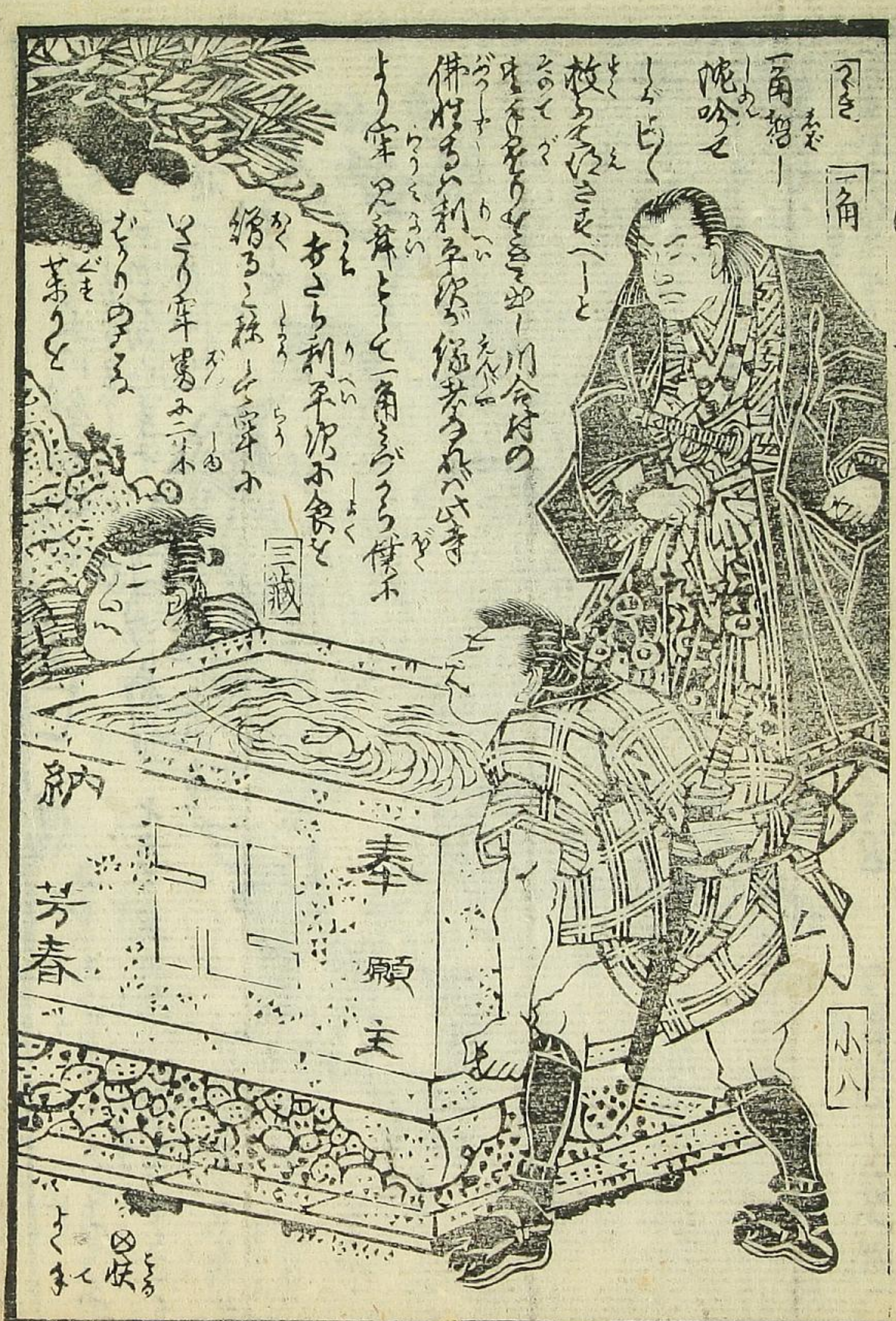
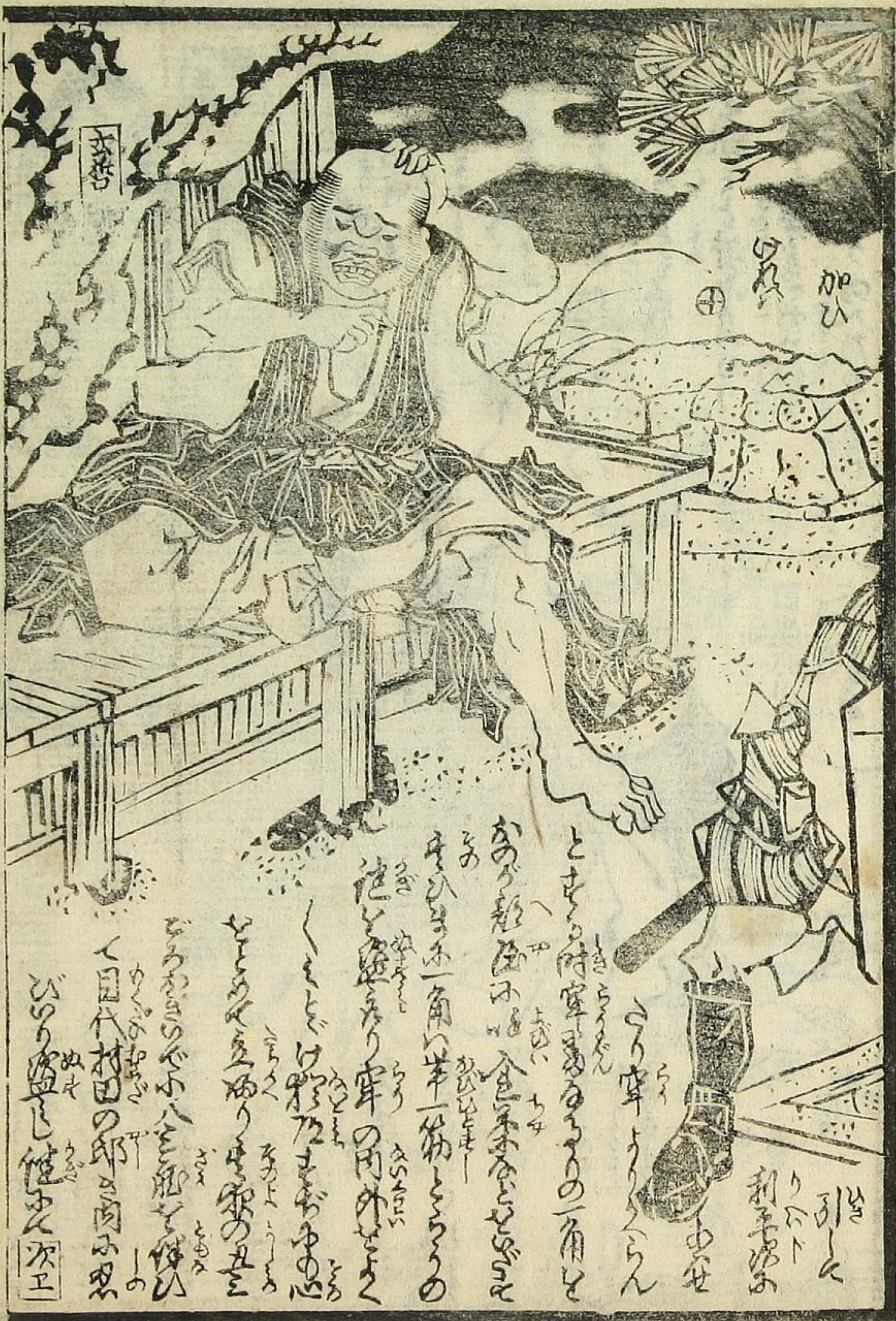
[illegible]

どうあるのよふ八を船で渡す

て目代村田の郎と云ふ

ひかり燈に健ふん 次工

十一



下々五五 香掛在作田の雲龍寺治部

うき世の衣を

夏生村山主玄持

五

之五

卷之三 人事 一 松之氣物

つゝも此より怖畏をうくる心も平す

おきなりを解ふ連中して過失行ふと

酒を井と鑿のふたを平板で塞ぐ

多小也今能入ふと主が言ふは然り

聖朝
正統
五年
歲次
己未
正月
朔日
奉
勅
諭
旨
欽
此

白馬の文を又又山小立の文を

一角の鳴中が子なの下せぬ結り大衆の事

日之入也時也日

くちを述べておのゝき方なり
と云ふ

生々々々々々

由是之知也

中





早之





○或あぢき^{ぶらう}四^しは^は終^{まつ}の^{ちゆう}座^ざ地^ち木^{もく}と

[illegible][illegible]

文庫の春用金のことふて^{すけ}お^り集^りを


しとありてその数二分減るを全と奪ひ

さうして二僕のおはれを
さうして

透心と舌と刀不切
三
おん


とろろは羅ごお主人
ふ
ようい

予を乞ふの輩ありん
 一ふ
 ふ



頼りふと鯨さうなうのち
 せうちう せうちう せうちう

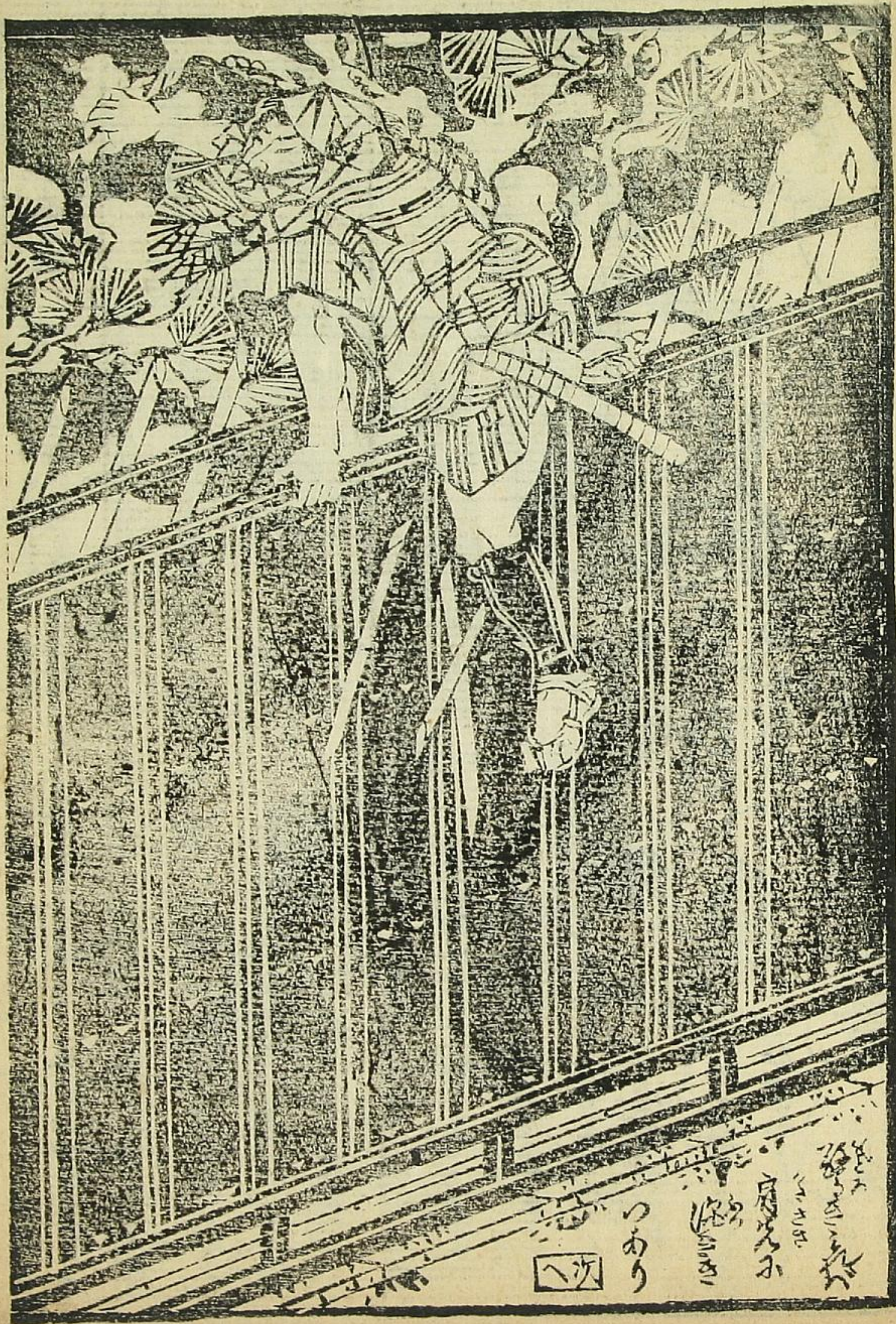
村中 百姓 繪中
 中々 中々 中々



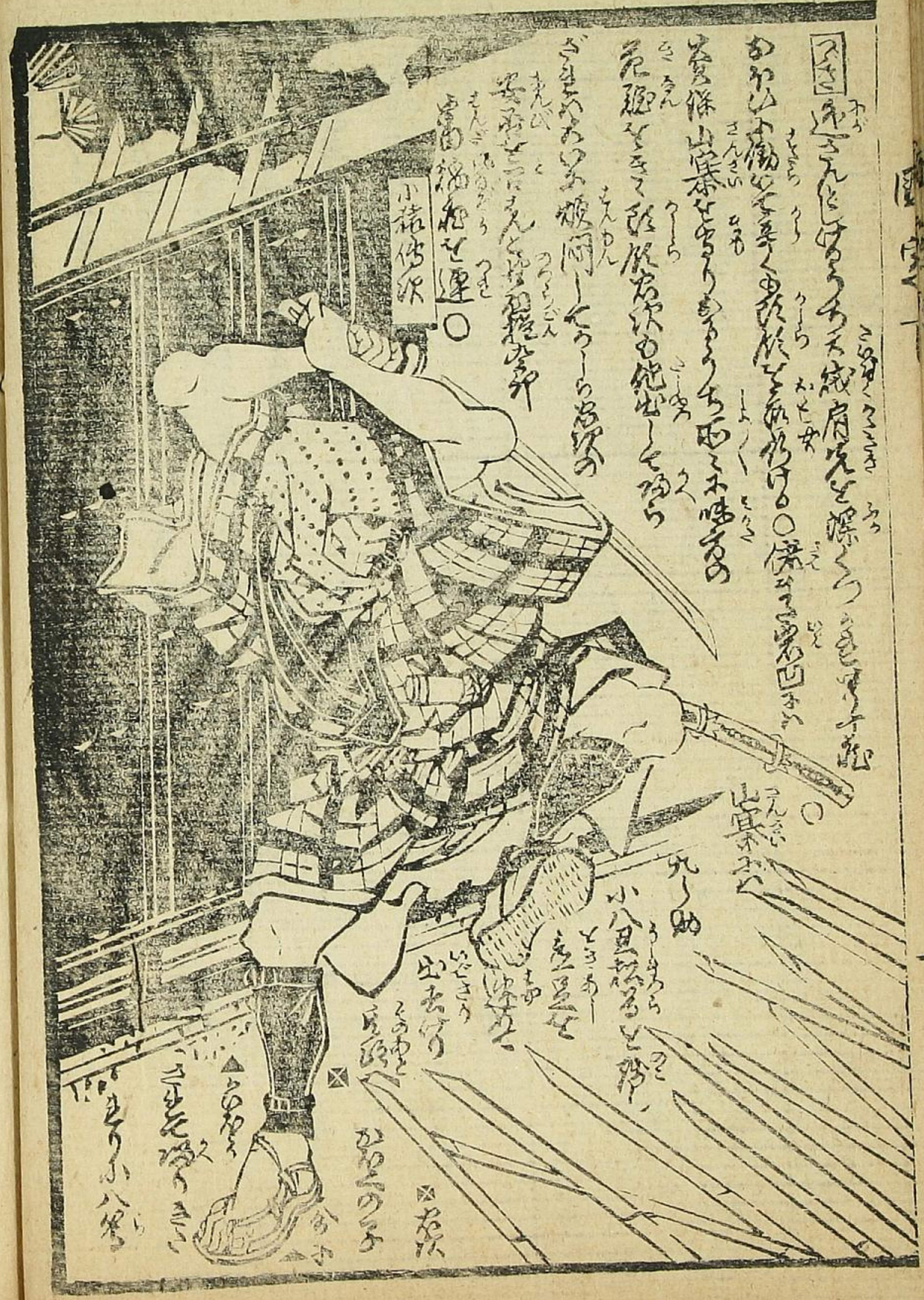
古の朋党の内分
ぢうきん

元始一藏を8





八次
 つあり
 月夜
 海
 風



八次
 つあり
 月夜
 海
 風

八次
 つあり
 月夜
 海
 風

010190517514

- 小栗判官 一代記 六冊
- 於古代源之原 一代記 四冊
- 由井正雪 一代記 四冊
- 天下茶屋 敵討物語 四冊
- 日蓮聖人 御一代記 三冊
- 宮本武藏 一代記 二冊
- 徳川天一坊 一代記 二冊
- 箱根權現 覺仇討 二冊
- 佐倉宗吾 一代記 一冊
- 清盛 一代記 一冊
- 假名手本 忠臣藏 一冊
- 同 二冊
- 算法教授書 一冊

- 大久保武藏鑑 二冊
 - 於染久松 一代記 二冊
 - 彦山 權現 二冊
 - 八百屋お七 一代記 二冊
 - 朝顔 日記 四冊
 - 景清 一代記 一冊
 - 新作 地口集 一冊
 - 西國觀音 靈驗記 一冊
 - 伊賀越敵討物語 一冊
 - 新作などく合 一冊
 - 徳川 武勇傳 六冊
- 東京 日本橋通三丁目十三番地
丸屋 小林鐵次郎板



